

謹賀新年

リフレッシュ滋賀

第6号

連合滋賀・高退協会報

発行責任者:吉村眞明

編集責任者:嶋澤順三

大津市松本2-10-6

電話:077-523-0500

平成十一年己卯元旦
連合滋賀・高退協役職員一同

新春の石山寺

特別記念講演

比叡山飯室谷不動堂
大河閣梨 酒井雄哉師

「比叡の山に生かされて」

今日の自分は今日で終わり、明日の自分は明日また始まる。毎日毎日が一生

「千日回峰行といっても、千日間連続して行を続けるものではありません。七年間で満行いたします。一年目から三年目は、一年で一〇〇日間、一日三〇〜三五Km、白の浄衣「死に装束」、裸足に草鞋ばきで合計三〇〇日間歩きます。二年目は、二〇〇日間、足袋をはき、笠をかぶって歩きます。三年目も二〇〇日間歩きますが、杖について歩きます。

そして、七〇〇日完了後が堂入りの行です。お堂に入り、九日間の断食、断水、不眠、不臥の行です。この時に大切なことは自己管理です。と申しますのは、時間の経過とともに一秒一秒身体が枯れていくのが自分でも分かります。行の途中で、口を漱ぐ水（コップ一杯）は与えられないのですが、飲めません。漱いだ水は別の空のコップに吐き出します。水が減っていれば飲んだことになってその後の行を続けることは許されません。

（二頁下段につづく）



講演する酒井雄哉師

高退協事務局担当者が変わりました

連合滋賀では昨年十一月一九日開催した第一三回地方委員会、これまで連合滋賀高退協の事務局を担当して頂いていた、川上善弘さん（連合滋賀副事務局長）が退任され、新しく池内正博さんが連合滋賀副事務局長に就任されました。

川上さんには長い間大変ご苦勞様でした。復帰先でのますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

退任あいさつ 川上善弘



連合滋賀第一三回地方委員会、副事務局長を退任いたしました。

五年二ヵ月、高退協のみなさんに満足いただける事務局ではありませんでした。今後はNIT労組滋賀県支部執行委員として、何らかの形でお役に立てればと思います。ありがとうございます。

就任あいさつ 池内正博



一〇月一日付けで、連合滋賀副事務局長に就任し、川上副事務局長の後を受けて高退協の担当をさせていただきます。

出身はゼンセン同盟東レ労組滋賀支部です。

精一杯頑張つて参りますので、高退協の皆様方のご支援・ご指導の程よろしくお願いいたします。

一九九九年は国際高齢者年

国際的視野で高齢者の生き生きとした生活を考える

今年（一九九九年）は「国際高齢者年」です。年の初めに高齢者問題を国際的視野で考えてみましょう。

日本が少子高齢社会へ突き進んでいることは先刻ご承知の通りです。しかし人口問題は日本だけのことでなく、世界的にも深刻な問題になっています。

世界の人口問題の深刻さは、少子高齢化に加えもう一つ人口爆発があります。

まず、人口爆発から見てもみましょう。国連は今年中に世界の人口は六十億人の大台を超えるだろうと発表しています。

三十億人だったのが一九六〇年だったから、わずか四十年間で世界の人口が二倍になったことになるわけです。このスピードは今後は下がるだろうとの見方もありますが、現在は年間八千万人もふえています。二〇二五年には八十億三千九百万人になると予想されています。

人口が増えるのは若者が増えることなので、国連が殊更「国際高齢者年」などと銘打って世界的に運動を呼び掛ける必要があるのか、と疑問に思われる方もあるでしょうが、人口の増加が著しいのは貧苦の発展途上国であり、一方日本や欧米などでは人口の高齢化が急速に進んでいます。六十五歳の高齢者は一九九五年には三億七千万人だったのが、二〇二五年には二億以上の八億九百万人になるだろうと予想されています。その上、世界の途上国でも日本と同じように少家族化が進んでいて、家族による老後の扶養はだんだんと期待できなくなっています。

国連も早くから高齢者問題に取り組ん

でいて、一九九一年十二月一日に「高齢者の為の国連原則」を採択しました。

一九九二年には「高齢化に関する宣言」を採択し、この宣言の中で、一九九九年を「国際高齢者年」に指定しました。

国連が、一九九一年に採択した「高齢者の為の国連原則」は、高齢者のあるべき姿を国際的視野で描いています。

「独立」「参加」「介護」「自己実現」「尊厳」の各表題毎に個人や協同体や国が追求すべき命題が取り上げられています。

簡単に概要を示しますと、「高齢者は、独立して生活ができる条件が整えられ、自分に直接影響を及ぼすような政策決定に積極的に参加でき、家族と協同体の介護と保護が得られ、自己の可能性を發展させる機会が追求でき、人間としての尊厳と保障をもって生活を送ることができるようである」という内容です。

高齢者を、弱者として捉えるのではなく、参加の表題では「若年世代と自己の経験や知識を分かち合うべきあり」、自己実現の表題では「社会的教育・文化的・精神的・娯楽的資源を利用することができるようである」とあるように、生き生きとした高齢者像が期待されています。

（二頁よりつづく）

また、意識も次第に朦朧としてきて、いわば生と死の境を行ったり来たりします。そのような状態の中で、ふと我に返った時に、「何のための行か。一体、行とは何か」と自問自答する状態に陥ってしまうことがあります。行は人のために幸せを与えること、それは己を捨てることである、と自分の答え（目的意識）が得られまして、行を続けることができました。

赤山苦行 短刀で足の腫れを切る
仏さまのご加護を確信

堂入りの後は比叡山と京都赤山禅院往復一〇〇日間の赤山苦行になります。この行の途中で、足の指が腫れあがって一歩も歩けなくなったことがありました。が、持っていた短刀「千日回峰では途中でやめる時は自決せよと、身につけて出峰する」で指を切って汚れた血を出し、歩けるようになったのでまた歩き出す、というように何があっても止めることはできませんから、これを乗り越えることができました。

もう一つ、自分を励ますことができたのは、仏さまは必ず見ておられると確信できたことだと思います。どんなに苦しくても、それは仏さまが本気でやっているのか、ええ格好しているのではありませんか、とお話しになっておられるので、命までお召しになることはあるまいという信念です。

京都大廻り

次が、一日八四Km一〇〇日歩く京都大

廻り、睡眠時間は平均二時間ほどでしょう。か。

次の年に、一日三〇Km一〇〇日間の行があつて、千日回峰行は満行です。

千日回峰行で学んだこと

千日回峰行から教えられたことは、毎日なすべきことはどんなことがあつても繰り返すこと。目的意識を持って一日一生、毎日毎日が一生です。今日の自分は今日で終わり、明日の自分は明日また始まる。毎日を前向きに生きることほど有難いことはない、ということでした。」

（文責 編集者）

大河閨梨酒井雄哉師の 特別記念講演について

ここに再録した酒井雄哉師の講演は、昨年九月二十四日、守山市つがやま荘で開催された98滋賀県高齢者集会での特別記念講演です。

ご承知のように、酒井師は満六一歳で「千日回峰行」を二回満行されました。

淡々とした語り口で、比叡山での荒行の実態を自らの体験を通じてお話し頂きましたが、語り口とは裏腹な難行苦行を満行されたお話でありましただけに、却って一層酒井師の清澄で強靱な意志と行動の源が何か、を考えさせられた貴重な講演でした。参加者に大きな感銘を与えた講演でありましたので、新年に当たり一人の日本人の生き方を通じて「高齢者の生き生きとした生活を考える」ご参考

郷土の豊かさを検証すれば

中高年齢者の国内・海外旅行が盛んです。未知の土地の文化・歴史・景観などに新しい発見をし、新鮮な味覚や人情に感動する、旅に魅かれる所以でしょう。旅をしていて、ふと気になる時があります。自分の住んでいる処（県や市）が日本の中で住みよい処なのか、どの程度の位置にあるのだろうか、という疑問です。昨年発表されていくつかの「豊かさ指標」で検証してみました。

「都市ランキング」

全国六九三都市の中で
色々な調査が毎年発表されていますが、ダイヤモンド社が発表する全国六九三都市の調査が調査項目の豊富さで他を圧倒していて、たいへん面白いので、昨年八月に発表された調査から一部をご紹介します。

ダイヤモンド社では、都市の総合力を「暮らしやすさ」「豊かさ」「成長力」の三項目で評価していますが、この三項目が全て全国平均を上回っている県内の都市は次の四市でした。

彦根市	「暮らしやすさ」	(二九一位)
	「豊かさ」	(二四四位)
	「成長度」	(二五九位)
長浜市	「暮らしやすさ」	(三〇位)
	「豊かさ」	(八三位)
	「成長度」	(六〇位)
八日市市	「暮らしやすさ」	(二四九位)
	「豊かさ」	(五七位)
	「成長度」	(二九二位)
守山市	「暮らしやすさ」	(二七八位)

評価の尺度は色々な統計を基にした結果ですから、これらの都市にお住まいの方々の実感に添わない面もあるかも知れませんが、全国平均を上回っているという結果は評価されるべきで、これを維持するには、行政に任せるだけではなく地域住民の努力も必要でしょう。

因みに県都大津市は次の通りでした。

「暮らしやすさ」	(一九〇位)
「豊かさ」	(五五二位)
「成長度」	(一四七位)

紙幅の都合で県下の他の市は割愛しましたが、詳しくご覧になりたい方は、「全国六九三都市ランキング」編集（株）日本統計センター
週刊 ダイヤモンド編集部
発行 ダイヤモンド社
一九九八年十一月
をご覧ください。



「県ランキング1」

経済企画庁 新国民生活指標
四七都道府県の中で滋賀県は二四位

都道府県のランクは、毎年経済企画庁が「豊かさ指標」（新国民生活指標）を発表しています。こちらは各種の統計を

八分野に分類して集計しています。総合評価で、昨年（平成一〇年）は

一位	福岡県（前年一位）
二位	石川県（前年四位）
三位	長野県（前年二位）
四位	滋賀県（前年五位）

もう少し詳しく八分野毎に見てみると、滋賀県は次の通りでした。

住む・住環境	一四位
費やす・収入と消費生活	一六位
働く・賃金や労働環境	三六位
育てる・児童の教育など	三九位
いやす・医療と保険	三六位
遊ぶ・休暇と余暇	二四位
学ぶ・大学や文化施設	一八位
交わる・地域活動	五位

「県ランキング2」

三菱総合研究所九八年版
四七都道府県の中で滋賀県は五位
50～60代では一位

経済企画庁が発表した「豊かさ指標」では総合で滋賀県は二四位、ほぼ中位でした。しかし、昨年十月に三菱総合研究所が発表した「豊かさ指標」九八年版では、滋賀県は総合で五位でした。

三菱総研の「豊かさ指標」は、都道府県の生活条件、社会状態を示す統計と生活の十分野（1住まい、2交通、3仕事、4所得・消費、5貯蓄・資産、6健康・家族、7教育、8余暇・休暇、9医療・福祉、10生活環境）について住民に「生活の満足度」に関するアンケートを実施し、その満足度を反映させ、都道府県の豊かさを分析しています。

経済企画庁の「豊かさ指標」が、各種

の統計を生活分野に組み合わせて発表しているのに比べ、こちらは、住民アンケートに組み合わせ、地域での「満足度」を加味しているのが特徴です。

年代別の分析もありますのでご紹介しましょう。

《男女別・年代別豊かさ指標総合ランキング》

性別	年代	順位	県名
男性	50～60代	一位	宮城県
	40代	一位	滋賀県
	30代	一位	長野県
	20代	一位	岡山県
	10代	一位	滋賀県
女性	50～60代	一位	滋賀県
	40代	一位	長野県
	30代	一位	岡山県
	20代	一位	滋賀県
	10代	一位	岡山県

総合のみ一位から滋賀県の五位まで紹介しました。なかなかいいところってあるじゃないか、と思われるか、実感とは違うんじゃないか、と思われるか、それぞれのご判断にお任せしましょう。

それにしても、若者にはどうも人気がないようですが、50・60代には住み心地のよい県のようにです。

これらの指標だけで、高齢者にとってこんな県だと結論づけられるものでもないでしょうし、一喜一憂しても始まりませんが、他府県との同じ条件での比較評価ですから、実感と食違いがあるとしても、なにかのご参考にして頂けるのではないのでしょうか。

組織紹介

関西電力労働組合

滋賀地区本部OB会

◇名 称 関労滋賀地区OB会

◇設 立 昭和六〇年六月一日

◇会の目的 (会則より)

自由にして民主的な労働運動を推進してきた経験者が相集い、関西電力労働組合滋賀地区本部の発展に寄与するとともに、会員相互の連携と親睦を深める。

◇会 員

関西電力労働組合滋賀地区本部常任執行委員並びに滋賀地区本部選出の本部執行委員経験者、滋賀地区内各支部執行委員長経験者で構成。

現在、会員総数六二名中六〇歳以上の退職者は四〇名です。



平成10年定例総会

◇活動



定期総会で挨拶される本郷静夫氏

所期の目的達成のため、現役役員との連携を取りながら、毎年秋に開催している定例総会や連合滋賀高退協の諸活動を中心に幅広く活動を展開しています。

とりわけ、一四回目を数えることとなった平成一〇年度定例総会(平成一〇年一月七日開催)においては、昨秋の叙勲において「勲五等双光旭日章」を受賞された当会会員である本郷静夫氏を囲み、時代の違いはあれ労働運動に携わったOB会として、ささやかながらも共に喜びを分かち合う場を持ち、地域労働運動と共に歩んだ関西電力労働組合四〇有余年の歴史を振り返ることが出来ました。

今後も、現役役員との連携・親睦をさらに深めながら、関西電力労働組合滋賀地区本部の発展に向け、諸活動の充実に努めたいと思います。

編集後記

連合滋賀高退協のみなさん、初春のおよろこびを申し上げます。「リフレックシユ滋賀第六号」をお届けいたします。今、日本は二十一世紀を目前にしますます混迷、大変だ、大変だの大合唱が聞こえます。しかし、自分も苦しいがもつと苦行の二千日回峰行を満六一歳で満行された日本人もいます。比叡山の大阿闍梨酒井雄哉師です。昨年の98滋賀県高齢者集会での同師の記念講演を再録しました。

新年早々、苦の話では恐縮ですが、「苦を知って苦を制す」と洒落て頂いて、今年もよい一年になりますことを祈念申し上げます。

お知らせ

●高退協第五回総会 つがやま荘

二月一五日 一六時 受付

一六時三〇分 開会

投稿歓迎!

会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。原稿は左記までご送付ください。

〒520-0807 大津市松本2丁目10-16

連合福祉会館内

連合滋賀・高退協事務局

男と女の逆転現象

いま、という時代をよくよくみれば、随所に男と女の逆転現象がみられます。つまり、かつての男はいまの女で、かつての女はいまの男です。たとえば、援助交際です。援助交際というのは、オジンが若い娘、特に女子高校生あたりにねらいを定め、何万円かを与えて、いつときおつき合いを願う、という意味ですが、いまや逆援助交際時代に入り、三十歳代のお姉さんが、かわいい男子高校生あたりにねらいを定め、何万円かを与えてかわいがるという風潮が広がっています。人妻も新婚早々から彼、つまりセックスフレンドをもち、亭主とは別個にセックスを楽しむことが大流行のようです。

年寄もこのような風潮のさきげを地で行っており、かなり以前から「亭主元気で留守がいい」というところから出発して、粗大ゴミ化し、さらに濡れ落ち葉化してしまったのは、広く知られるところですが、その結果、姑と嫁の関係は夙に改善され、いまや舅と嫁の関係が悪化の一途を辿っており、息子たちの悩みのタネとなっています。結局のところ、五〇年以上に及ぶ平和と豊かさは、世の女どもの享受するところとなり、世の男どもにとつては、キンヌギ効果でしかなかったということ、しみじみ実感しております。御同輩のみなさん、かくなる上はパイアグラでも愛用して、年寄りの冷や水とやらに挑戦してみようではありませんか。

(Z・S)